



むしろ、厚塗りしたと感じたら早めに拭き取ってしまおう。硬化後はガラス状の被膜となるため、パーツクリーナーや溶剤では除去できない上に、硬いが割れやすくなってしまう。



パフ研磨済みのアルミパーツ表面の半分をマスキングテープでカバーして、パーツクリーナーで脱脂する。サンドペーパーによる足付けは不要だが、油分は取り除く必要がある。



2日間常温乾燥させた後にマスキングテープを剥がし、マザーズのマグボリッシュでパーツ全体を研磨する。研磨後の表面を見ると、コーティングを行った右半分は被膜が機能して研磨されていないことから、物理的な研磨に対する表面保護性能は高いと言える。つまりあらかじめ研磨した地肌塗布しておけば、透明な被膜によって保護されるというわけだ。



綿棒に少量のG1コート垂らし、パーツ表面にこすりつける。塗り加減は、パーツ表面がしっとり濡れる程度でいい。不適のペイントのように膜を作る必要はない。

パフ研磨や超微粒研磨剤を用いたブラスト処理は金属そのものの艶と輝きが強調されるため、カスタムレストアの両面で非常に効果的な処理のひとつである。ところがパフ研磨の終わったアルミパーツは、金属表面が露出しているために、酸化つまり錆や腐食の影響は避けられない。

したがってパフ研磨直後の輝きを維持しようと思えば、頻繁な磨き直しが必要となる。そうした手間が億劫でクリアのスプレーをかける、研磨された金属表面への密着性が悪くて乾燥後に割れたり、当面感が低く素材の輝きが損なわれることも少なくない。一部のペイントショップでは、パフ面にパツチリ密着するクリア塗装を行っているから、「こすりても」というウザイはこすりたサージスを利用するしかなかった。

オールフィックスのG1コートは、難しいとされてきたパフおよびブラストによる研磨作業後の表面保護処理用に開発されたケミカルである。

詳細な内容成分は秘密だが、一種の樹脂をベースとしながら、平滑な面に対しても優れた密着性を発揮し、高い透明度と表面高度を実現するといふ。また金属のみならずFRPや塩化ビニール、硬質プラスチックや石材にも利用できるという汎用性の高さも特徴。

完全硬化後には表面硬度が9H程度になるといふから、一般的なペイントに比べても耐擦傷性は極めて優れているはずだ。同ショップでは、ウェットブラスト後の表面保護としてG1コートを利用したガラスコートティンクを商品化しており、その性能には十分な自信があるとのこと。

テストに用いたのは、パフ研磨後しばらく経過したアルミパーツ。この半分をマスキングでカバーして付属の綿棒で4~5回に分けて薄く塗りつける。圧塗りとすると衝撃で割れてしまふことがあるから、まさにガラスコートティンクだ。薄塗りが肝要らしい。広い面積を処理するなら、スポンジや毛羽の立たない布を使うことをオススメしたい。

PROFILE

ブラストやパフ研磨などで空気中に露出した金属、FRPや塩化ビニールなどの樹脂表面にガラス状の被膜を作るコーティング剤、香川県のオールフィックスが発売したG1コートは、自社でウェットブラスト処理を行った後の表面保護用に開発した1液タイプのケミカルで、完全硬化すると鉛筆硬度で9H程度の非常に硬い被膜になり、耐擦傷、耐塩水、耐熱、耐溶剤性に富むという。このため同ショップでは「ガラス状表面被膜剤」と呼んでいる。塗布にはテンプの綿棒やスポンジを用い、処理面にはできるだけ薄く塗り広げることがきれいに仕上げるポイントになる。容量は30ml。

常温で2日間乾燥させた後に表面を観察すると、確かに透明感が高く、さらに金属研磨用のケミカルで研磨しても、簡単には剥がれない。完全硬化までには1週間ほど必要で2日間の乾燥ではまだ3H程度の硬度といふことだが、故意に傷つけるようなことをしなければ、実用性は十分と思われた。ちなみにオールフィックスでは、1年以上の耐久試験を行った上で商品化したとのこと。

ウェットブラスト後のキャブレターや空冷シリンダーのフィンに施工するには手間がかかるが、長期間に渡って表面保護ができると思えば、利用してみる勝ちはあるはずだ。



30mlのコート剤と綿棒で1セット。薄塗りを心掛ければ、クランクケースカバー周りのパフまたはウェットブラスト済みパーツ全てに処理しても余るくらい。欲張って厚塗ると、後になってトラブルを招くから、大量に使わない方が良い結果につながる。

sun-mech.item No.34
金属表面をガラス状被膜でコーティング
オールフィックス
G1コート

価格 3,045円(税込)
問合せ先 / オールフィックス Phone087-875-1244
<http://homepage2.nifty.com/allfix/>

100文字総括

膜厚を感じさせない仕上がりが特徴的。パーツのサイズによっては塗布作業が手間になるのは否めないが、光りモノ、磨きモノ大好きな人におすすめ。ウェットブラスト後の素材感を維持するのも適している。 栗田 晃

